

# ちよつとしい話

～ 思えば色々・今日から明日へ ～

20年12月1日

今年の年頭に「30年に向かって展望を立て、一年の計をスタートさせましょう」、「世の中の生活は益々<sup>きび</sup>厳しくなりますから」と記述しました。今年<sup>しんねん</sup>は自然の災害や経済の不況、我が宗<sup>しん</sup>にあっては芝の増上寺<sup>しんじょう</sup>の住職成田有恒上人<sup>しんこう</sup>（寺内大吉師）の逝去<sup>せいきよ</sup>、善入院<sup>ぜんがく</sup>29代善覺<sup>ぜんがく</sup>老師<sup>らうし</sup>御遷化<sup>ごせんげ</sup>、各界の著名人も死亡、又、色々<sup>いろいろ</sup>思い煩<sup>わづら</sup>う諸事件の勃発。反面北京オリンピックで北島選手<sup>きたかみ</sup>の二連覇<sup>にれんぱ</sup>やソフトボールの優勝、秋にはノーベル賞を四人の方（物理学：南部氏、小林氏、益川氏、化学：下村氏）が受賞されました、大変喜ばしいことです。世の中は悪い事もあれば良い事もあります。私自身は「今年こそ今年こそとて暮れにけり」でした。皆様方は如何<sup>いかが</sup>でしたでしょうか。

「人のふり見て我がふり直せ」、世の中自分の事は棚に上げて他を責める事に躊躇<sup>ちゆうちよ</sup>しない、それでいいのか？それでは世界が暗くなるばかりです。時には人を怨む<sup>うら</sup>より我が身を顧みる<sup>かえり</sup>事も必要でしょう。昨今葬式不要論者が出てきました。言い換えれば魂の存在を認めていないと言う事になります。魂<sup>たま</sup>とは先祖の精霊<sup>しょうれい</sup>が供養する事に因<sup>よ</sup>って救われた状態です。救われていない状態を鬼<sup>おに</sup>と呼びます。鬼が禍<sup>わざわい</sup>を起こすのは世の常です。鬼畜生<sup>きちくしょう</sup>の境涯<sup>きょうがい</sup>は争い事大好き集団です。先祖の供養<sup>おこた</sup>が怠れば鬼が増え、暗い話ばかり増える事になります。来年は丑年<sup>うし</sup>です。「牛に引かれて善光寺参り」有名な実話です。欲の深かった婆<sup>ばば</sup>の「晒してあった布切れ」が隣家の牛の角<sup>つの</sup>に引っ掛ったまま牛が走り出してしまい、婆<sup>ばば</sup>が牛を追いかけて善光寺に辿り着き阿弥陀様に参拝出来たと言う御縁起<sup>ごえんぎ</sup>が長野県小諸市<sup>こもろ</sup>の布引観音様<sup>ぬのびき</sup>にあります。この御縁起のように丑年の来年は良き佛縁を頂き心安らかに平穩無事に日暮<sup>ひぐらし</sup>が出来ますように御祈念申し上げます。

漫 漫

善壽界善入院油掛地藏尊